

# 島根県安来市伯太町・松江市東出雲町の庭園と石材

庭園文化研究分科会 原 裕二

## 1. 石材の産地

今まで数々の庭園を見る機会があったが、無意識のうちに石材の性質や産地を探ろうとする習性は直らない。

今回は安来市伯太町母里・広瀬町広瀬、松江市東出雲町上意東で地元名家の庭園を視察した。いずれも見事な庭園であると同時に、興味深い石材が数多く鑑賞できた。そこで今回も昨年度と同様、これらの庭園と石材の関係について考察する。

## 2. 安来市伯太町母里・奥野本家の宝庫

伯太町母里の奥野本家(屋号：奈良屋)は明治5年に建てられたもので、現在は国登録有形文化財となっている(安来市観光協会伯太支部)。

奥野家の祖先は奈良で鍛冶屋を営んでおり、母里に定住した後は、鍛冶屋、農業、酒造業、山林経営を生業とし、母里村長の役職を歴任した。

敷地内で最も古い有形文化財として、裏庭に宝庫がある。

その基礎となっている石材は、遠くから見ると福光石にしか見えない。

しかし、宝庫の建造は1858年(安政5年)とされている。石見銀山や温泉津が天領であった時代に、蔵の基礎の石材として使うために運搬してきたのだろうか？

どうにも腑に落ちないので、その産地について考察を試みた。ただし決め手がないので、問題は解決していない。

### 【宝庫の基礎石材の特徴】

1. 土台に使用されているので、後世に付け加えられたものではなく、建築当初(安政5年・1858)のものと考えられる。
2. グリーンタフのような緑色を呈する(浅海に堆積した後、低温度の変質作用)。
3. 花崗岩類のように硬質ではなく、やや固結度が低い。剥離したり、角が欠けたりしている箇所がある。
4. 磯は少ない。φ1cm程度の亜円礫で、暗灰色を呈する。ガラス質で急冷した流紋岩と思われる。
5. 軽石あるいは沸石のような白色の鉱物が多く見られる。

### 【結論】

#### ★第1候補

久利層流紋岩類 ——> 流紋岩凝灰岩

荒島石(軽石火山礫凝灰岩)のうち、礫の少ない部分と考えられる。久利層凝灰岩の中でも場所によっては、淡い緑色を呈するものが知られている(鹿野ほか, 1994)。

### ★第2候補

波多層火碎流堆積物 ——> 火山礫凝灰岩

意東石(安山岩)の一種で、溶岩の噴出に伴うデイサイトの火碎流堆積物かもしれない。淡緑灰色を呈するものも報告されている(鹿野ほか, 1994)。しかし、石材が酸性で流紋岩であること、強度がやや低いことから、奥野家本家の宝庫は、荒島石の仲間と判定したい。

### ★その他の可能性

・古浦層砂岩 ——> 凝灰質砂岩

森山石。美保関町で産出し、松江城の石垣で用いられたように、そこそこの強度を有する(乗岡, 2017)。新鮮部では薄い緑灰色を呈する。だが、現地の石材は砂岩ではなく、凝灰岩である。

・福光石。

よく似ているが、福光石特有の黒っぽい小さな岩片が見当たらない(鹿野ほか, 2001)。福光石は石像や狛犬でさえ、その大半が石見地方でしか用いられていない(永井・齋藤, 2014)。ましてや基礎材としてわざわざ運搬してくるというメリットはなく、可能性は限りなく低い。

ただし、この宝庫が近年土台ごと改修されていれば、その限りではない。

・来待石

来待石も新鮮な部分は淡い緑灰色だが、岩相が違うように思える。



写真-1 奥野本家の裏庭にある宝庫



写真-2 むき出しになった宝庫の外壁  
基礎を取り替えたようには見えない。



写真-3、4 宝庫入り口の階段とその接写



写真-5 宝庫の土台  
階段と同じ石が使われている。  
建築当初(安政5年・1858)のもの  
と考えられる。

その他の石材との比較



写真-6 福光石  
灯籠や石仏、狛犬などに用いられる。石見銀山では、基礎や張り石、水路の蓋などにも利用されている。  
黒色の小さな岩片と白っぽい軽石レンズが特徴である。岩相が違うようと思われる。

### 3. 松江市東出雲町上意東・一瀬(いっせ)家の石垣

一瀬家は400年ほどの伝統を持つ上意東の名家である。

その庭園は、1744年(延享元年)京都の庭師、玄信が作庭したと伝えられる。玄信は池泉式庭園とし、松竹梅の庭と名付けた。ただし、池より手前の平地部分は戦後、当主によって改修されている(小口・戸田, 1975; 重森, 1979)。

庭よりも時代は下るが、屋敷を囲うように石垣と塀が存在する。この石垣について考察を行う。



写真-7、8 塀の石垣とその接写

安山岩質で、数cmの岩片が点在する。硬質である。



写真-9 屋敷を取り巻く塀と石垣

写真-10

家屋裏にも同様な石垣が存在する。

#### 【一瀬家石垣の特徴】

1. 赤みを帯びた火山礫凝灰岩。
2. 奥野家本家の宝庫の石材よりはかなり硬質である。
3.  $\phi 1\sim4\text{cm}$ 程度の礫が多く見られる。ガラス質ではない。暗灰色や赤褐色の安山岩類と考えられる。

## 【結論】

### ★第1候補

波多層火碎流堆積物 ——> 火山礫凝灰岩

意東石(安山岩)の一種と思われる。溶岩の噴出に伴ってデイサイトの火碎流堆積物が噴出している。この層の下部では、淡緑灰色を呈し、緻密で溶結している(鹿野ほか, 1994 ; 日本応用地質学会中国四国支部, 島根県地質図説明書編集委員会, 1985)。

### ★その他の可能性

・久利層流紋岩類 ——> 流紋岩凝灰岩

礫が比較的多いので、荒島石(軽石火山礫凝灰岩)の可能性は考えられる。判定は難しいが、近くの上意東の岩石を使用したと考えたい。

・古浦層砂岩 ——> 凝灰質砂岩

森山石。船で運搬すれば、比較的容易に手に入る。

このほか、矢田石や島田石などもあるが、判定する材料に乏しい(島根県地質図説明書編集委員会, 1985)。

## 4. 安来市伯太町母里・後藤家の庭園

後藤家の庭園は、広瀬町広瀬にあった旧宮田家の庭園を平成 13~14 年に移築して継承したものである(後藤)。

石材は、近隣の広瀬あるいは比太地区の飯梨川流域を中心に調達したと言われるが、詳細は不明である。

庭石や石組みに大変興味深いものが見られたので、ここに紹介する。



写真-11 後藤家庭園  
出雲流の見事な庭石



写真-12 庭の一角にあるつくばい  
庭石の多くは花崗岩類で構成される。



写真-13 甌穴(おうけつ)を利用した沓脱石(くつぬぎいし)

おうけつとは、岩石の凹みに礫があり、水流によって円形の穴を形成したもの。鬼の舌震いや出雲市神西の岩坪などが有名。



写真-14 何かの鉱石か鉱滓と思われる不思議な岩石

## 5. 参考文献

後藤喜郎・史樹：伯太後藤家パンフレット

鹿野和彦・山内靖喜・松浦浩久・豊遙秋(1994)：松江地域の地質，地域地質研究報告(5万分の1地質図福)，地質調査所，26-33，44-51，107.

鹿野和彦・宝田晋治・牧本博・土谷信之・豊遙秋(2001)：温泉津及び江津地域の地質，地域地質研究報告(5万分の1地質図福)，地質調査所，108-110.

永井泰・齋藤正(2014)：島根の石造物データ，報光社，21-25，143-160，192.

日本応用地質学会中国四国支部 島根の石材

<http://www.jseg.or.jp/chushikoku/sonota/090910/sekizai.pdf>

乗岡実(2017)：石垣と河原から読み解く松江城，松江市歴史まちづくり部史料編纂課，5-8.

小口基実・戸田芳樹(1975)：出雲流庭園，小口庭園グリーンエクステリア，147-149.

重森完途(1979)：探訪日本の庭2山陰，相賀徹夫編集著作，小学館，28，140.

島根県地質図説明書編集委員会(1985)：島根県の地質，島根県，561-563.

安来市観光協会伯太支部：母里まちあるきマップ